

[読者の声]

豚の病気を防ぐために

All about SWINE 50, 28

このたび、日本 SPF 豚研究会のお手伝いをさせて頂くこととなりました独立行政法人家畜改良センター茨城牧場の笹田です。よろしくお願ひ致します。

私は、平成 8 年に農林水産省動物検疫所に採用され、長年、家畜衛生に携わってきました。そして平成 28 年に独立行政法人家畜改良センター勤務となり、昨年 4 月現職に就き、豚の改良業務に携わることとなりました。改良技術のみならず、飼養管理や繁殖技術についても知らないことばかりで、勉強の毎日です。

生産現場で日常的に遭遇する疾病の多くは、種々の環境因子の影響により豚の感染防御機能が低下し、健康な豚では感染を起ささないような病原性の弱い病原体が原因で発症する日和見感染症です。環境が豚に与えるストレスをいかに小さくするかを考え、良好な飼養環境を維持することが重要となります。

豚の健康状態、尾かじり等の発生の有無や飼料及び水が適切に給与されているか、環境温度は適正か、換気が適切に行われているか等を観察し、豚が快適に飼養されているかどうか確認するとともに、豚舎、器具など豚と接触するものの清掃・

消毒を徹底し、清潔に保つことが重要です。定期的な畜舎の消毒は飼養環境中の病原体を低減し、感染症の発生を予防します。

では、清掃・消毒は正しくできているでしょうか？

消毒の効果は、消毒薬の濃度、温度や作用時間だけでなく、有機物の存在によっても影響を受けます。糞便、土などの有機物が存在していると、その効果は著しく低下します。踏込消毒の前に靴底の土を取り除くこと、畜舎消毒の前に粉塵や糞尿等を取り除くこと、これらを実行しないと、十分な消毒効果は得られません。

また、「待ち受け消毒」として用いられる消石灰は、降雨により濡れると、その後乾燥とともに消毒効果のない物質に変化するので、再度散布する必要があります。降雪地帯における雪解けも同様です。

優れたワクチンや薬でも、劣悪な飼養環境では、その効果が十分に発揮されません。家畜衛生対策の基本である清掃・消毒を、もう一度確認していきたいと思っています。

(独立行政法人家畜改良センター茨城牧場
笹田 陽子)